

「律法学者を非難する」

2022年05月06日

イエスは教えの中でこう言われた。「律法学者に気をつけなさい。彼らは、正装して歩くことや、広場で挨拶されること、会堂では上席、宴会では上座に座ることを望んでいる。また、やもめの家を食べ物にし、見せかけの長い祈りをする。このような者たちは、人一倍厳しい裁きを受けることになる。」(マルコ福音書 12 章 38 節～40 節)

主イエスはファリサイ派の律法学者たちを批判し、彼らの言動を激しく非難している。非難の言葉は辛辣である。ファリサイ派は紀元前2世紀頃、民衆の宗教教育をする使命に立って勃興した一宗派である。ファリサイは「区別、分離する」という意味で、律法を守らない人と分離すると主張した。彼らはモーセの十戒を中心に、成文化した律法と先祖の言い伝えによる戒めなどをまとめ、膨大な律法体系を作り上げ、これを民衆に教え、守らせることを目指した。エルサレム神殿の祭儀を司るサドカイ派は貴族的な宗教集団を形成したのに対し、ファリサイ派は全国各地にあったシナゴグ（会堂）で、民衆に直接教えていたので、民衆の側に立つ集団であった。教義も、民衆の苦悩を踏まえて、メシア待望、復活信仰、最後の審判などを説いた。彼らは何より、民族主義的な誇りと相まって、律法の順守を厳しく強要した。ところが、時代が経つと、彼らは宗教的権威を持つようになり、特権的な階級となっていった。律法による差別管理社会を形成し、律法を守らない者を「罪人」と烙印し、共同体から排除した。主イエスの時代、ファリサイ派の人々は民衆の上に君臨し、権力をもって律法の下で民衆を支配するような集団に墮していた。民衆は彼らの宗教支配に苦しみ、主イエスは彼らの傲慢と偽善を批判されたのである。

マルコ福音書におけるファリサイ派の律法学者たちへの主イエスの批判は、「律法学者に気をつけなさい」から始まり、三つのことを述べておられる。①「彼らは、正装して歩く。」彼らはラビ（教師）と言われたが、権威ある宗教的服装で、民衆を威圧していた。それに対し、主イエスの服装は、粗末で、埃にまみれていたのではないか。サンダルもすり切れたものであつたらう。②「広場で挨拶されること、会堂では上席、宴会では上座に座ることを望んでいる。」彼らは町を悠然と歩き、道行く人々から敬意を込めて挨拶されることを求めた。また、会堂では、上席に座り、民衆を睥睨し、宴会の席では上座に座ることを当然とした。③「やもめの家を食べ物にし、見せかけの長い祈りをする。」当時のやもめは、経済的にも精神的にも心細い立場にあつたらう。そのようなやもめを食べ物にし、長い祈りによって取り繕う。主イエスは、「このような者たちは、人一倍厳しい裁きを受けることになる」と言い切っておられる。

マルコ福音書は三点を述べているだけであるが、マタイ福音書23章では36節を用いて、「律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたがた偽善者に災いあれ」と、彼らの偽善を徹底的に非難している。その中で、「あなたがたは預言者の墓を建てたり、正しい人の記念碑を飾ったりしている。そして『もし先祖の時代に生きていたら、預言者の血を流す側には付かなかつたであらう』などと言う」という言葉に、最も注目させられる。過去の預言者については敬意を込め、墓を建て、記念碑を飾りつける。迫害したり、殺害などをしかつたと言う。彼らは、過去や伝統を美化しているが、事実が見えない。目の前の主イエスの真実が見えず、預言者たちの血を流したと同じ拒絶の態度に凝り固まっていた。自己保存や自己栄誉を求める時、今が見えなくなるのである。このことに心したい。